

会 議 議 事 録 (抄)

会議名	専門学校東京テクニカルカレッジ 第一回 学校関係者評価委員会
開催日時	平成 25 年 11 月 19 日 (火) 18 時 00 分～20 時 00 分
会場	専門学校東京テクニカルカレッジ 地下 1 階 テラホール
参加者	外部委員 : 7 名 (委員の氏名・所属等は巻末別添資料参照) 学内関係者 : 8 名
配布資料	① 式次第 ② 参加者委員名簿 ③ 「専門学校東京テクニカルカレッジ学校関係者評価委員会会則 (案)」 ④ プロジェクター投影資料ハンドアウト ⑤ 「平成 24 年度専門学校東京テクニカルカレッジ自己評価報告書」
会議録	1. 開会の辞・事務局紹介 (事務局) 2. 学園側関係者挨拶 学園側の関係者として、佐々木章 (学校法人小山学園 学園理事 学園本部長)、佐藤康夫 (同 学園理事 東京工科自動車大学校 校長)、三上孝明 (同 専門学校東京テクニカルカレッジ 校長) が挨拶を行った。 3. 委員のご紹介 (三上) 事務局より、配布資料②に基づいて委員のご紹介が行われた。 4. 議長ほかの選出 事務局提案により、本委員会の委員長並びに副委員長、本会議の議長の選出をはかったところ、霜野隆 委員が委員長並びに議長に、佐藤康智 委員が副委員長としてそれぞれ賛成多数により選出された。また、書記として小野寺洋子 委員が賛成多数により選出された。 5. 議事 (1) 第一号議案：平成 25 年度学校関係者評価委員会の体制について 議長は、事務局に対し、本会議設立に至る経緯と職業実践専門課程の概要についての説明を指示し、事務局はこれに応じて配布資料④に基づいて説明を行った。 次いで議長は、事務局に対し「専門学校東京テクニカルカレッジ学校関係者評価委員会会則 (案)」を朗読させるとともに、その説明をさせた後、これを出席者にはかったところ、賛成多数により、原案のとおり、可決決定された。 (2) 第二号議案：平成 24 年度自己評価報告書に基づく学校関係者評価について 議長は、事務局に対し、平成 24 年度における自己評価の報告を指示し、事務局はこれに応じて配布資料⑤に基づいて説明を行った。 議長は、上記説明に基づいて、当該自己評価報告の内容の是非を出席者にはかったところ、当該報告は、『専修学校における学校評価ガイドライン』並びに『専門学校等評価基準書』に基づいて作成されている事が確認され、また、内容的にも特に問題が無いことが確認された。一方、報告書中で学校側が自らの課題として捉えている点については改善を図って頂きたいとの意見が出された。 議長は、以上の総括として、平成 25 年度の学校関係者評価は、平成 24 年度専門学校東京テクニカルカレッジ自己評価報告書内容に準じるものとするをはかったところ、賛成多数により可決決定された。 なお、議長より、次回会合までに、本自己評価報告書について各自さらに内容を精査し、意見を持ち寄ってもらいたい旨要請があり、その後閉会となった。 6. 次回日程について (議長) 平成 25 年 1 月 23 日 (木) 18 時 00 分～20 時 00 分 7. 閉式の辞 (議長) 以上

学校法人小山学園 専門学校東京テクニカルカレッジ
第1回 学校関係者評価委員会 参加者名簿

委員会名	区分	系・科/区分細目	主な関係科	役割	出欠	氏名	所属企業	役職	備考
専門学校東京テクニカルカレッジ 学校関係者評価委員会	卒業生	建築・インテリア系	建築		○	安藤 拓也	株式会社 三輪設計		建築科OB
			情報		×	小屋松 寿敏	富士通株式会社		情報処理科OB
		情報・Web・ゲーム系	Web		○	野 孝吉	株式会社 イマカラ	取締役	Webデザイン科OB
			Web	副委員長	○	佐藤 康智	株式会社 ディー・エス・エー	プロデューサー	自動車マーケティング科OB
	保護者	ゲームPG	ゲームPG		○	澤坂 智之	株式会社 スケアクロウ	社長	ゲームプログラミング科OB
		バイオ・環境系	バイオ		○	立田 由里子	独立行政法人 理化学研究所	研究員	バイオテクノロジー科OB
		建築・インテリア系	インテリア		○	丸茂 源幸	株式会社ミナト設備企画設計	代表取締役	インテリア科保護者
			情報		×	多田野 富夫			情報処理科保護者
	地域	情報・Web・ゲーム系	ゲームPG		×	飯沼 まゆみ			ゲームプログラミング科保護者
			Web		○	寺田 展子			Webデザイナー科保護者
同事務局 事務局	協会 企業等	バイオ・環境系	バイオ/環境		○	菅野 貢二			バイオテクノロジー科保護者、 18時30分以降参加
		中野区商工会議所	建築		○	樋口 修	株式会社 ヒグチ設計	社長	
			情報/Web		○	中山 典隆	東京商工会議所 中野支部	社長	
		町内会	全科		○	岸 哲也	東京商工会議所 中野支部	会長	
	事務局	建築・インテリア系	建築		○	大塚 雄二	東中野五丁目小連野会	所長	
			インテリア	委員長 議長	○	霜野 隆	大塚雄二都市建築設計事務所 一般社団法人 建築家協会	マムハウス事業部部長 会長	
		情報・Web・ゲーム系	情報/Web		○	杉山 司	株式会社レスト 一般社団法人 インテリアプランナー協会	社長	
		バイオ・環境系	バイオ/環境		○	川戸 茂	桔梗OTパートナーズ株式会社	社長	
	事務局	全体	バイオ/環境	書記	○	佐々 義子	特定非営利活動法人 くらしとバイオプラザ21	常務理事、主席研究員	
			バイオ/環境		○	小野寺 洋子	株式会社 光英科学研究所	専務取締役	
			ー		○	三上 孝明		校長	
			ー		○	高瀬 恵悟		教務部長	
	事務局	建築・インテリア系	建築		○	田中 健司		事務長	
			建築		○	今野 祐二		建築科科长	同科カリキュラムリーダーでも兼務
			インテリア		○	甲田 竜雄	建築監督科科长	同科カリキュラムリーダーでも兼務	
		情報・Web・ゲーム系	情報		○	白井 雅哲	インテリア科科长	同科カリキュラムリーダーでも兼務	
同事務局 事務局	事務局	情報・Web・ゲーム系	建築		○	鈴木 昇	建築科夜間科科长	同科カリキュラムリーダーでも兼務	
			情報		○	井坂 昭司	情報処理科科长	同科カリキュラムリーダーでも兼務	
			Web		○	宮川 連悟	webデザイナー科科长	同科カリキュラムリーダーでも兼務	
			ゲームPG		○	松田 達夫	ゲームプログラミング科科长	同科カリキュラムリーダーでも兼務	
	事務局	バイオ・環境系	バイオ/環境		○	大工 宏明	環境テクノロジー科科长	同科カリキュラムリーダーでも兼務	
			バイオ/環境		○				

平成 25 年 12 月 13 日

第一回学校関係者評価委員会の総括について

専門学校東京テクニカルカレッジ
校長 三上孝明

平成 25 年 11 月 19 日に開催された平成 25 年度第一回学校関係者評価委員会の総括について、以下の通りご報告いたします。

記

当該会議議事録 5. 議事中の「(2) 第二号議案：平成 24 年度自己評価報告書に基づく学校関係者評価について」において賛成多数により可決決定されたとおり、当該委員会では平成 25 年度の学校関係者評価は、平成 24 年度専門学校東京テクニカルカレッジ自己評価報告書内容に準じるものとされた。

委員会の上記のご判断に基づき、本校としては、第一回学校関係者評価の総括として、「平成 24 年度版自己評価報告書」の総括部分の抜粋を、当該委員会の総括として報告する。

なお、本評価委員会から学校側に対し、報告書中で学校側が自らの課題として捉えている点については改善を図って頂きたい旨要望があったこと、また、議長から各委員に対し、次回会合までに本自己評価報告書について各自さらに内容を精査し、意見を持ち寄ってもらいたい旨要請があったことを記しておく。

以上

平成 25 年度 第 1 回 学校関係者評価 結果

(学校関係者評価委員会実施日:平成 25 年 11 月 19 日)



学校法人 小山学園
専門学校東京テクニカルカレッジ

1. 結果

本校の平成 25 年度第 1 回目の学校関係者評価は、平成 25 年 11 月 19 日に開催された学校関係者評価委員会の第二号議案で可決されたとおり、平成 24 年度自己評価報告書内容に準じるものとされました。この事について、以下に結果をまとめます。

大項目	平成 24 年度 自己評価	第 1 回学校関係者評価
基準 1 教育理念・目的・ 育成人材像	3.8/4.0	教育理念や目的、育成人材像の重要性に関しては、教職員に十分に浸透しており、その実践においてもおおむね満足できる取り組みがなされている。また、各学科の教育目標、育成人材像を正しく方向付けるための一連のプロセスにおいても適切に構築されている。 一方、環境の変化に対応するための将来構想に関しては、今後も社会等の動きを見極めて柔軟に対応する必要がある。
基準 2 学校運営	3.4/4.0	学校運営方針や事業計画については明確に定められており、設置法人や学校そのものの運営に関しても寄付行為や規定類により適切に運営されている。一方、専門学校教育を取り巻く環境は日々変化しており、柔軟性かつ迅速に対応できる体制を整える必要がある。
基準 3 教育活動	3.8/4.0	教育目標の設定や成績評価の仕組み、教員組織等はおおむね満足できる水準に達している。特に教育方法や評価に関してはかなり力を入れて取り組んで、自己評価報告書の「第Ⅱ章 2.本校における教育質保証システム」であげられたコマシラバスや授業シートような数々の取り組みも独自の取り組みとして評価できる。 今後の課題としては、変化の激しい今後の教育において優れた資質を有する教員を確保することや、資格や免許の取得支援等に関して更なる努力が必要である。
基準 4 学修成果	3.0/4.0	就職率の向上プロセスについてはおおむね満足できる水準に達している。一方で、資格・免許取得率の向上に関しては、最低目標の達成に終始することなく、総合的な支援策を講じる必要がある。また、卒業生の動向調査については十分に実施されているとはいえないため、今後は組織として体制を整えていく必要がある。
基準 5 学生支援	3.3/4.0	就職支援や保護者との連携についてはおおむね満足できる水準に達している。一方で、毎年僅かながら退学者が発生しており、人間性を含む対応力強化、解決策の共有などについて、なお一層低減に努力する必要がある。
基準 6 教育環境	3.7/4.0	施設・設備・教育用具等は、おおむね満足できる水準に達している。また、学外実習・インターンシップ・海外研修等への取り組みに関しても、おおむね満足できる水準に達している。一方、防災面に関しては、施設面での問題は無いが、緊急時の連絡体制などにおいては、先進的とされる学内の情報システムをより有効に活用することを検討すべきである。
基準 7 学生の募集と受入れ	3.5/4.0	学生募集活動に関しては、コンプライアンス上は適切な運営が行なわれている。 一方で、入学定員は充足できていないことから、上記に掲げた優れた教育活動やその成果などの情報発信提供方法を改善していく必要がある。
基準 8 財務	3.6/4.0	財務に関しては、財務基盤、予算収支計画、監査の各項目に関して問題ない。なお、財務情報の公開に関しては、第 2 回学校関係者評価委員会までに実現することを確認した。
基準 9 法令等の遵守	3.1/4.0	法令等の遵守に関しては、法令遵守、個人情報保護、学校評価の各項目に関して問題ない。教育情報の公開に関しては、第 2 回学校関係者評価委員会までに実現することを確認した。
基準 10 社会貢献・地域貢献	3.5/4.0	学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献については、パソコンスクール等の市民講座や地元中学生や修学旅行生に対する体験授業等の実施など積極的に実施している。また、学生のボランティア活動に関しても、時間的な制約があるものの、地元商店街のイベント等に積極的に参加するなど、一定の取り組みを行っているとして評価できる。

以上